

【兵庫県加西市】 校務DX計画

1 現状分析

本市で「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己評価で、低い回答をした項目は以下の点である。

- ・教育委員会主催の研修について、資料をクラウド上にアップロードし、いつでも参照できる環境としていますか。(回答：一部している(半分以上))
- ・学校との各種事務手続きをペーパーレス化していますか。(回答：全くしていない)
- ・教育委員会が学校に発信する通知や調査をクラウドサービスを用いて共有、実施、集計していますか。(回答：一部行っている(半分未満))
- ・教育委員会から学校及び教職員へのお知らせや相互の情報共有等をクラウドサービスを用いて行っていますか。(回答：一部行っている(半分未満))

2 課題

現状分析から見える本市の課題は教育委員会を含めてクラウドサービスの良さを分かっておらず、それゆえ活用できていないのが実情である。また基本的には現状はオンプレでの作業がほとんどを占め、文書をメールでやり取りするという流れになっている。さらには、公文書、各種帳票類などを紙で保管するというやり方から抜け出せておらず、また出退勤管理も押印で行っているため、市費の職員の月々の勤務実績、勤怠管理等も紙で原本提出となっている。

意識として、今もアナログ対デジタルという図式になっていることが多く、アナログの中にデジタルをうまく活用するという意識になっていない教職員もあり、そうした教職員のマインドセットを変える必要がある。

3 校務DXに向けて

(1) R7年度導入の統合型校務支援システムの活用

R7年度導入の統合型校務支援システムでは、出退勤、各種帳票類等、デジタルを活用して行う予定である。電子で行うことの良さを実感し、これをきっかけに更なるDXをすすめていきたい。また、学校現場に要求するだけでなく、それに合わせた教育委員会と学校間での事務処理の仕方等も再編成する必要がある。

(2) 研修会の実施

汎用性が高いクラウドサービスの活用の仕方を、講師を呼び、数回に分けて研修会を行うことで、クラウドサービスの良さを知り、活用できるようにする。このことで校務だけではなく、学習へのICTの活用にもつながり、さらにはアナログが良い。デジタルが良い。といった2者対立の構造から、それぞれの良さを知り、取捨選択をすることで業務改善につなげて、児童生徒に向き合う時間を作る。